

授業概要

本講義では、発展途上国の社会、政治、経済、宗教、軍事など諸側面を、統計的分析、理論、歴史の三面から学んで行く。とりわけ中央アジア・文明の十字路の5か国の金融・財政・経済問題を、その歴史的・社会的要因に基づいて展開する。今後、日本の経済は、中央アジアを資源の供給地や市場として相互依存関係を強めていくと考えられる。

中央アジアに興味を抱かせてくれる言葉がある。それが「シルクロード」である。この授業では、ソ連解体後、1991年末、シルクロードに誕生した中央アジアの国々の民主化と市場化への取り組み、日本の役割について講義する。

授業計画

第 1 回	イントロダクション・本授業の内容、対象国・地域の概要について
第 2 回	世界経済の中の途上国経済について
第 3 回	文明の十字路・中央アジアの歴史的側面と日本について
第 4 回	中央アジア諸国の社会的側面と日本について
第 5 回	中央アジア諸国の経済開発とガバナンスについて
第 6 回	中央アジア諸国の金融状況と日本について
第 7 回	中央アジア諸国の通貨と為替問題について
第 8 回	中央アジア諸国の経済改革と日本について
第 9 回	21 世紀における中央アジアの国際関係について
第 10 回	中央アジアのイスラーム、ナショナリズム、石油資源について
第 11 回	1991 年後の中央アジア諸国の経済・社会の変容と日本について
第 12 回	中央アジア諸国経済と中国の「一帯一路」国家戦略について
第 13 回	中央アジアのヘソ・新疆の地域経済開発問題について
第 14 回	中国とロシアの中央アジア戦略について
第 15 回	中央アジア諸国のイスラーム金融について
第 16 回	筆記試験

到達目標

法隆寺の飛天は中央アジアに原点を持つ。日本はシルクロードの終点であり、日本の文化は、中国を経由した中央アジアの影響を受けている。こうした歴史観と現実の文物や思想が、日本人の心を中央アジアに向けさせ、シルクロードにアこがれさせていた。日本人の私たちの生活は、様々な形でシルクロードの人々の生活と結びついている。授業を通じて、中央アジア地域の強さ、そして弱さを理解し、正直パートナーとなれるよう、その基礎知識を習得する。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出る中央アジア地域の経済実態や課題について、質問や議論に積極的に取り組んでほしい。そして授業を欠席せずにノートをとってもらいたい。授業開始後 30 分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

予習・復習

授業のレジュメを把握し、新聞・WEB サイトの中央アジア経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

成績は、レポート(30%)と期末試験(70%)により評価を行う。

テキスト

特定の教科書は使用しない。参考資料を配布する。